

平成 5年12月15日

発行 青梅市文化財保護指導員連絡協議会

青梅市郷土資料室

(青梅市駒木町 1-684 Tel0428-23-6859)

青梅市指定史跡武蔵御嶽神社石の間覆舎修理のこと

青梅市補助事業として、工学博士白井裕泰先生の設計監督による武蔵御嶽神社石の間覆舎修理が進行中である。

この石の間の覆舎は昭和 42 年に改修されているが、雨風を凌ぐだけのもので、老朽化が進んでいたもので、今回の改修は、石の間に相応しい本格的な堂宮建築である。

施工は中村古建築、棟梁中村正之氏、この建築には、さまざまな堂宮建築の技法が採用されているが、そのいくつかを紹介したいと思う。

◎ 折置組虹梁

虹梁の上に丸桁（がんぎょう）を載せて組み合わせる技法で、虹梁・丸桁それぞれに、他方の幅の溝を作って組み合わせるのである。この工法は、火打梁を使わないで、尚かつ火打梁の働きを成す組み方で、まさに一分の隙間も許されない技術が要求される。この工法が採用されたのは、唐破風作り天井の美しさをそのまま見せる必要のためである。

◎ トッコ板

破風板を化粧棟木に取付ける際に、左右の破風板が分かれるのを防ぐ為に、破風板と化粧棟木の間に入れる板の名称である。

通常の工法では、ボルト等で固定するのだが、トッコ板はこれに替わるもので、2枚の破風板をトッコ板で蟻落とし、更にトッコ板と化粧棟木を蟻落しで接続するのである。この工法はボルトで固定する場合に比べて、衝撃を分散するために、地震の揺れに対しても、大変強い、古くからの建設技術である。

◎ 化粧野地板丸ジャクリ

化粧野地を重ねる際に、その重なる部分を丸くしゃくって、重ねた時の、板への無理な負担を和らげ、割れを防ぐ工法である。

白井裕泰先生と中村古建築の大工さんの心意気が技巧の粋を凝らして建設が進められている。

(文責 金井國俊)